

恵那の中山間地域に適した 土地利用型スマート農業の推進

＜背景＞・農業者の高齢化や稲作経営体の減少

👉スマート農業への期待と地域性考慮の必要性

＜内容＞1)地域の支援体制強化、2)技術理解の促進、3)現地検証と地域の実情に合わせた普及

👉利点・欠点の見える化(啓発リーフに沿った導入普及)

＜成果＞・技術導入経営体数&機器台数

👉35経営体、81台(R6年度末現在)



活動内容 1)地域の支援体制強化

・推進会議の設置(R2~7年度)

👉会議(年3回、R7:6/10、12/11)、アンケート(毎年、R7:R7.12~R8.1)



2)技術理解の促進

・研修会への参加促進、展示・実演会の開催等

👉202名の参加(R2~7年度、R7:6名)

・県「無料貸出サービス」の利活用→現場での試用促進

👉66名、14経営体の活用・体験(R2~7年度、R7:2経営体)



3)現地検証と地域の実情に合わせた普及

・農業者の協力を得て技術検証・調査

👉稲作用9スマート農機、10利用場面(R元~4年度)



スマート農業技術名(スマート農機の利用法)

技術概要

期待される効果(利点)

当地での利用時の課題(欠点)

数値指標(作業時間・コスト目安、平坦との比較)等

導入農家の声

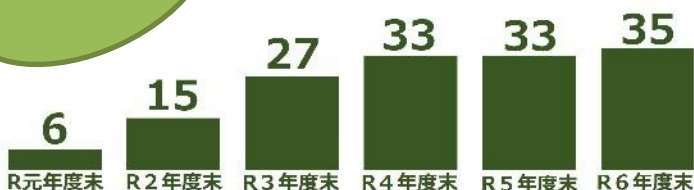
見える化



R5.3完成「啓発リーフレット」

成果

＜技術導入実績(R6年度末)＞



35経営体

直進キープ田植機	26台
防除ドローン	19台
クラウド型経営管理システム	15台
収量等センサ付きコンバイン	9台
アシストトラクター	7台
リモコン草刈機	3台
その他(アイガロネット, 生育管理システム)	2台

81台

恵那地域での一層の技術導入に向けて

情報提供

導入判断材料

省力 + 恵那の 高額
軽労 地域性 高性能



- 1.経営体のほ場・水条件・労働力などに応じて
- 2.高性能化と低価格化
- 3.開発側と利用側との連携・改善
- 4.生産物の高付加価値化などの視点
- 5.条件不利地向け開発 ⇔ 技術が使える環境作り